

審査の結果の要旨

氏名 ゴラニ ソロモン、エレス

極度に複雑化した現代の都市空間を、建築物や交通網などのフィジカルなモノの集積や配置の観点から捉えることには限界がある。むしろ、そこに住む人々の日常生活が都市空間の中でどのように繰り広げられているのかという、活動の側面から間接的に都市を把握するという視点が有効な場合がある。都市のあらゆる物象的な側面は、そこに居住する人々の一挙一動に投象されていて、それを観察することは、都市そのものを隠喩として語ることと同義と見なす視点である。

本論文は、東京というメガロポリスに住む一般的な人々が、日常的に生活の一部として繰り返している移動行為に着目し、その経路上において出会うさまざまな都市の設えから、都市空間の特性を分析しようとする試みである。具体的には、第一段階として、37人の被験者が、ある日の朝、家を出てから夜に戻るまでの移動や出会いを、そこで体験した空間の状況として携帯電話のカメラで撮影し、メールで転送してもらうという手法で記録し、その後、簡単なアンケートに答えてもらっている。この調査に引き続き、第二段階として、11人の被験者に対し、筆者が一日中、その行動を追尾し、記録するという詳細な調査を行なっている。こうした調査により、都市での活動と、活動の場としての都市空間との対応が明らかになり、間接的に都市空間を経路(path)とそれに伴う物語(narrative)として把握することが可能になっている。

論文は8章から成り、これにAppendixが付いている。

第1章は、現代都市の空間の理解の仕方として、その内部における人々の移動の軌跡とそこで出来事の重要性を指摘し、経路とその物語性に着眼した理由について述べている。

第2章は、Fernando Pessoaなどの論考に現れる、移動し、体験する都市居住者について考察し、経路モデルの作成に向けての論点を明らかにしている。

第3章は、行為、日常生活、物語性というキーワードから都市を読み解く方法について論及し、経路と出来事、都市施設との出会いに都市空間の本質が隠されていることを指摘している。

第4章は、第一段階の調査方法に関する記述で、携帯電話の写真と、それに関連するメッセージを記録する方法等について述べている。

第5章は、第一段階の調査の結果のまとめで、37人の被験者の日常行動の経路とそこでの出会いについての物語が語られている。被験者が携帯電話で撮影した写真とそれに対するコメントがまとめられている。

第6章は、第二段階の調査の結果のまとめで、11人の被験者の一日の行動の詳細な記録（筆者による写真とその物語）が語られている。筆者が被験者を追尾する過程で撮影した写真とそこでの物語がまとめられている。

第7章は、村上春樹の小説『ダンス・ダンス・ダンス』の主人公の経路に着目し、現実と非現実との狭間で体験される都市空間をトレースすることにより、都市をメタファーとして把握する方法論について言及している。

第8章は、これまでの調査と論考を、1)計画された行為と偶発性、2)空間的な連結性、3)空間表記の技法、4)複合化した物語性、5)自己同一性の源の観点からまとめて、結論としている。

以上要するに、本論文は、現代都市において人々が日常的に体験する、出来事と空間との対応を、経路における物語性という観点から語ることにより、それを可能としている空間的な場の在り方を間接的に表現しようとするもので、直喩的な都市空間の記述とは異なる都市の記述方法を提示するものである。これは新たな切り口からの都市論の成立を予感させるものである。極めて複雑な事象である都市に対して、直接的な設計の意図や計画の効用から空間を語るのではなく、間接的な影響を観察して、都市の様相としてその本質を捉えようとするこの手法は、筆者にオリジナルなもので、日常生活と都市空間との対比を鮮やかに表現したものである。これは都市・建築の計画学の分野に新たな方法論を提示したもので、その意義は大きいものと判断される。

よって、本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格と認められる。